

# 人を守る人工衛星を見守る

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第 97 号
名称（型式等）	勝浦宇宙通信所
所在地	勝浦市芳賀花立山 1-14
設立（竣工）年	昭和 43（1968）年 2 月

## 選定理由

勝浦宇宙通信所は、昭和 43（1968）年 2 月、科学技術庁宇宙開発推進本部の「勝浦電波追跡所」として千葉県勝浦市に発足、旧宇宙開発事業団（NASDA）の設立とともにその一施設となりました。勝浦宇宙通信所の主な業務は、人工衛星の追跡と管制です。打ち上げられた人工衛星からの電波を受信し、人工衛星の位置や姿勢、積んでいる電子機器が正しく働いているかどうかを知り、状況に応じて衛星に対するコマンド（指令）電波を送信し、衛星を維持管理する役割を果たしています。現在、JAXA の追跡運用は筑波宇宙センターから遠隔で制御・監視をしていますが、平成 18（2006）年頃までは勝浦宇宙通信所にも運用室があり、職員が様々な運用業務を行っていました。国内には勝浦のほか、増田（種子島）等に宇宙通信所があり、海外にはサンチアゴ（チリ）、ミンゲニュー（オーストラリア）に海外可搬局を設置しています。

また、深宇宙探査機用の通信所として、長野県佐久市の臼田宇宙空間観測所、鹿児島県肝属郡の内之浦宇宙空間観測所にそれぞれ 2 つの大型アンテナを設置しています。

勝浦宇宙通信所は、総敷地面積が約 5.4 万平方メートルで、海拔約 180 メートルに位置し、大きなパラボラアンテナがあります。そのうち、直径 20 メートル（勝浦第 4 送受信局用：地球周回衛星から月探査機との通信まで幅広い対応が可能）、11 メートル（勝浦第 3 受信局用：地球環境変動観測ミッションに対応した受信専用）のパラボラアンテナが現在使われています。

他にも、展示室のある追跡管制棟、電力棟、野々塚コリメーション棟の設備があります。野々塚コリメーション棟は野々塚山（勝浦宇宙通信所から直線距離で約 7 キロメートルの位置）にあり、アンテナの性能確認や試験等に使用されています。

また、併設されている展示室では、勝浦宇宙通信所で実際に使用されていた追跡管制のための本物の設備や、地上での試験で実際に使用された人工衛星の実機モデルを見学できます。日本初の地球観測衛星で、昭和 62（1987）年 2 月に種子島宇宙センターから N-II ロケット 7 号機で打ち上げられた、海洋観測衛星「もも 1 号」（MOS-1）（航空宇宙技術遺産に認定された人工衛星）の熱試験モデルを展示しています。宇宙開発に関する様々な映像の視聴や小惑星探査機「はやぶさ」のミッションをシミュレーション体験できるゲームなどもあります。



勝浦第 3 受信局用パラボラアンテナ



勝浦第 4 送受信局用パラボラアンテナ

協力：宇宙航空研究開発機構（JAXA）勝浦宇宙通信所

参考文献：勝浦宇宙通信所リーフレット・追跡ネットワーク技術センターHP